環境



私の視点「なぜここを質問したか」

二酸化炭素の排出により地球温暖化が進行し、世界各地で気候変動の影響が深刻化している。将来にわたり地球環境を維持していくためには、ゼロカーボンへの取組が急務である。

「ゼロカーボンシティうみ」の取組と今後の方向性は

安川（やすかわ） 禎幸（よしゆき） 議員

録画配信はこちらから ▶

答弁（町長）　町全体でゼロカーボンの実現に向けた取組を進める

問　地球温暖化対策実行計画とは。

答　環境課長

本町は2050年度までに二酸化炭素排出量実質ゼロを実現することを長期目標にしている。

地球温暖化対策実行計画は、この目標に向けて町や町民、事業者が取り組む基本的な方向性を定めたもの。

問　計画に基づいたこれまでの取組は。

答　環境課長

ごみの減量化、資源循環、リユース・リサイクル、省エネルギー対策などに取り組んだ。

具体的には、家庭用生ごみ処理機の購入助成、剪定枝などの再資源化、廃食用油の回収・リサイクルなど。

問　公共施設の省エネ推進や再生可能エネルギー施策は。

答　環境課長

これまで照明のLED化、空調設備の更新、公用車としてEV（電気自動車）と充電設備の導入などに取り組んできた。

現在は、電力調達と電気料金の削減を同時に行う※電力リバースオークションサービスの導入を計画している。

再生可能エネルギー由来の電力への切り替えによる二酸化炭素排出量の削減と、競争による電力調達コスト削減の両立を図る。

※電力リバースオークションサービス

複数の小売電気事業者がオンライン上で価格を競い合うことにより、競争性を確保しながらより有利な条件で電力を調達する仕組み。

問　脱炭素化の取組として、EVと充電設備に対する助成の考えは。

答　環境課長

糟屋地区では、個人住宅へのEVなどの助成は行っておらず、本町でも現在のところ助成は考えていない。

今後は国や県の動向を踏まえて、脱炭素化に向けたより効果的な取組を進めていく。

問　ゼロカーボンシティうみの将来像は。

答　町長

町民、事業者、行政がそれぞれの立場で行動して町全体で取り組みを進めていく必要がある。

二酸化炭素排出量を2030年度に48％削減という目標達成を一つの節目とし、事業成果を検証しながら町民や事業者と連携して、ゼロカーボンの実現に向けた取組を着実に進めていく。



LED照明により、夜間でも明るくなった総合スポーツ公園



質問を終えて

2050年の目標に向けて全町あげて精力的な取組がなされていると感じる。

「ゼロカーボンシティうみ」の将来に期待したい。

高齢者福祉



私の視点「なぜここを質問したか」

宇美町総合福祉計画の策定と併せて、本町の高齢者対策をより充実させ、いつまでも住み続けたいと感じてもらえる町の実現が大切である。

高齢者支援策の充実を

丸山（まるやま） 康夫（やすお） 議員

録画配信はこちらから ▶

答弁（町長）　さらに強く力を注いで取り組む

問　本町の高齢化率の推移は。

答　健康課長

平成17年は15・3％、平成27年は23・3％、直近の令和8年は29・8％と推移している。

令和12年には31・1％となる見通し。

問　高齢者の交通手段確保の一つとして、運転免許証返納対策の取組は。

答　副町長

今後、JR・西鉄バス・タクシー・のるーと宇美など幅広い交通手段で利用できる交通系ICカードを、運転免許証返納後の初回に限り、1万円分交付することとしている。

問　老人福祉センターの老朽化の現状と閉館予定は。

答　健康課長

建築から既に47年が経過しており、近年では雨漏りや機械の破損が相次いで発生するなど老朽化が深刻化している。

また、町民に民生委員・児童委員を知ってもらうために、広報やホームページで活動内容を周知している。町としても人材確保に向けたバックアップ体制を強化し、担い手の確保に努めていく。

問　老人福祉センターの代替施設についての方向性は。

答　管財課長

公共施設再配置計画では、し～ず・うみへの機能移転を計画していた。その過程で、し～ず・うみの北側法面が土砂災害警戒区域の調査対象となったため、現在は当初計画していたし～ず・うみへの機能移転のほか、別施設への機能移転も選択肢として検討している。

問　民生委員・児童委員の確保と育成の取組は。

答　福祉課長

会議回数の削減や地域からの相談を受けた際は速やかに公的機関に引き継いでもらうなど、活動の負担軽減と活動しやすい環境づくりに取り組んでいる。

施設は公共施設再配置計画に示しているとおり、令和9年度末で閉館する方針である。

問　すべての高齢者に、ずっと宇美町に住み続けたいと感じてもらえるまちづくりの方向性は。

答　町長

高齢者の方々がいつまでも生きがいを持ち、安心して自分らしく暮らすことのできるまちづくりをめざして、高齢者施策全般にさらに強く力を注いで取り組んでいく。



老朽化が進む老人福祉センター



質問を終えて

今年は高齢者福祉計画策定の年であり、しっかりした計画を策定し、いつまでも住み続けたい町”うみ”を実現してほしい。